

はじめに

長崎大学 薬学部長

中山 守 雄

(本部委員会委員長)



平成21年度から、文部科学省の「大学教育充実のための戦略的・大学連携支援プログラム（戦略 GP）」の1つとして開始された「在宅医療と福祉に重点化した薬学と看護学の統合教育とチーム医療総合職養成の拠点形成」に関する取組の最終年度にあたり、この3年間の取組をまとめた最終報告書を、皆様方のお手元にお届けできる運びとなり、長崎薬学・看護学連合コンソーシアム代表として安堵しているところです。そして何よりも、これまで、この取組を推進・ご支援いただきました数え切れないくらい多くの方々に、心からの感謝の意を表したいと思えます。本取組は、医療現場で患者が必要としている様々なケアに対応できる臨床能力のオンデマンド型総合実践力を身につけた次世代のチーム医療総合職としての薬剤師と看護職の育成を目指し、在宅医療と福祉に重点を置いた薬学と看護学の実践型統合教育を展開することを目標にかかげてきました。そして、その目標の下、長崎県内で薬剤師と看護職の養成課程を持つ国公立の3大学（長崎大学、長崎県立大学及び長崎国際大学）が長崎県、長崎県薬剤師会、長崎県病院薬剤師会、長崎県看護協会及び長崎県医師会と連携し、長崎薬学・看護学連合コンソーシアムを組織し、活動を進めてまいりました。この報告書の冒頭に掲載した3大学の学長挨拶ならびに各団体代表者そして外部評価委員会委員長からの寄稿文には、本コンソーシアムの活動に対する熱いメッセージと活動継続への強い決意がこめられております。大学間連携、多職種連携というキーワードを特色とする本取組によって、今後、重要度が増すことは間違いのない在宅医療と福祉の分野における薬物療法と看護の知力に長けたチーム医療総合職を育成することは、長崎県全域の医療環境の強化に大きく貢献できると期待されています。本報告書をお読みいただいた皆様方には、これまでの活動内容に対する忌憚りないご意見を頂ければ幸いです。また、引き続き継続することが決定した本コンソーシアムの活動に対するご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

